

「JPAN009 株を利用して生産されたグルコアミラーゼ」に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 令和3年10月27日～令和3年11月25日
2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況 2件
4. 意見・情報及び食品安全委員会の回答

	意見・情報*	食品安全委員会の回答
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 ページの最下行の「参照 1」について： 古い「平成 29 年国民健康・栄養調査報告」ではなくて、最新の「令和元年国民健康・栄養調査報告」を参照しなかったのはなぜか？</li> <li>・ 8 ページの 9 行目「暴露」と、14 ページの 2. (2) の 13 行目「ばく露」とは、どちらかに字句を統一したほうがよい。</li> <li>・ 15 ページの 6 行目「FCC」は「12th Edition」か？</li> <li>・ 15 ページの 6 行目「(FCC) 等」の等は FCC 以外の何を指しているのか？</li> <li>・ 15 ページの第 7 の 3. の 4 行目「含まれると考えにくい」について： 同 4. および同 5. の文末のように「ないと考えられる」と記載しなかった理由は何か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご指摘の参照文献は、申請者が、申請書類を作成する時点において、最新のものを引用し、申請資料として提出したものです。評価にあたって、最新の文献等に基づく考察等が必要な場合には、申請者に対して申請資料の修正や追加資料の提出を求めているところですが、本件については、最新の調査報告においても国民 1 人 1 日当たり砂糖・甘味料類の平均摂取量に評価に影響を与えるような大きな変動はないことから、提出をされた資料から評価可能と判断をしたところです。</li> <li>・ 「FCC 等」については、申請資料が作成された時点における最新の Food Chemicals Codex のほか、食品衛生法に基づく規格基準が該当します。</li> <li>・ その他、ご指摘の用語等については、評価書内で統一するよう修正をいたします。</li> </ul>

2	<p>・わずか数十年程度の知見に限られている遺伝子組換え品については、中・長期的な影響はまだまだ判断できないはず。遺伝子組換え品は、100%の安全性が断言できるまで、使用を禁止すべき。</p> <p>・にもかかわらず、本件のようにたかだか「デンプン糖製造において糖化効率の向上を目的として使用」するために、遺伝子技術を使うのは論外。伝統的な製法でデンプン糖を製造すれば済む話。</p> <p>・日本ではすでに500種近い遺伝子組換え成分〔飼料用含む〕が承認されており、この数字はダントツの世界一のレベルと思われるが、これ以上増やすのはやめていただき、いったんすべての遺伝子組換え品の流入を停止いただきたい。</p> <p>・これだけ多くの遺伝子組換え品を流入させているのに、健康影響を見るときは、いつも単品でしか見ていない。(残留農薬や添加物も含めた)複合影響も確認すべき。複合影響を検証できないなら、検証できるまで認めるべきではない。</p> <p>・審査にあたっては、申請者が提出した資料に基づいており、15資料のうち7割以上の11が社内資料である。申請者に有利なものに偏るのは当然であり、検証は、全て第三者によって実施されたものに限定して審査すべき。</p>	<p>食品安全委員会は、国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下、規制等のリスク管理を行う行政機関から独立して、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正に食品健康影響評価を行っています。この食品健康影響評価は、食品安全基本法第11条第3項に基づき、その時点において到達されている水準の科学的知見に基づいて行うこととしております。</p> <p>また、食品健康影響評価は、申請者の提出した資料をもとに行いますが、これまでの科学的知見や海外での評価結果も踏まえ、資料の内容についての問題点、疑問点については説明や再提出を求めるとともに、調査会の審議において、資料の内容が不足していると判断された場合は、追加試験等のデータを含め必要な追加資料の提出を求めています。</p> <p>本添加物については、「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」(平成16年3月25日食品安全委員会決定)に基づき、挿入遺伝子の安全性、挿入遺伝子から産生されるタンパク質の毒性、アレルギー誘発性等について確認した結果、人の健康を損なうおそれはないと判断しました。</p> <p>また、遺伝子組換え食品を摂取することによる複合影響に関しましては、従来品との同等性を踏まえ、安全性を個々に確認することで、食品としての安全性は担保されるものと考えております。</p> <p>なお、本添加物の使用、遺伝子組換え品の流入についての御意見は、リスク管理に関するものと考えられることから、厚生労働省へお伝えします。</p>
---	--	---

※ 頂いた意見・情報はそのまま掲載しています。